# 救命入門コーステキスト

ガイドライン 2020ver.
〈 感染症対応 〉

救命の連鎖

名張市消防本部 名張消防署

# 救命処置の流れ（心肺蘇生とAEDの使用）

処置

観察

感染対策

自分のマスクがあれば着用する

①安全確認

傷病者の顔にあまり近づかない

②反応なし

③大声で応援を呼ぶ

119 番通報・ＡＥＤ依頼

通信指令員の指示に従う

傷病者の顔にあまり近づかない

④呼吸をみる

普段どおりの呼吸あり

気道確保

応援・救急隊を待つ

回復体位を考慮する

呼吸なし・判断に迷う.

⑤ 胸骨圧迫

胸骨圧迫を開始する前に、ハンカチやタオルなどがあれば傷病者の口と鼻にそれをかぶせる ※成人の場合人工呼吸は行わない

- 強く（約5cm）、小児の場合は片手または両手で、胸の厚さの約1／3の深さ
- 速く（100～120回／分） ※小児（1 歳～16 歳未満）
- 絶え間なく（中断を最小にする）
- 圧迫解除は胸がしっかり戻るまで

※ 小児の場合に限り、講習を受け人工呼吸の技術を身につけ、人工呼吸を行う意思がある場合に実施する。（人工呼吸を行う場合は感染防護具があれば使用する。）

応急手当を行うものが複数いれば、一人は部屋の窓を開ける等、室内の換気をする

⑧AED装着

・電源を入れる

・電極パッド※1 を装着する

※1. 小学生～大人用パッドを使用

⑨心電図解析

電気ショックは必要か？

必要有

⑩電気ショック1回

⑪その後、直ちに胸骨圧迫を再開

⑫繰り返し

必要無

⑪直ちに胸骨圧迫を再開

⑫繰り返し

救急隊に引き継ぐまで、または傷病者が目的のある仕草をしたり、普段どおりの呼吸が出現するまで心肺蘇生を続ける。

・救急隊に傷病者を引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う

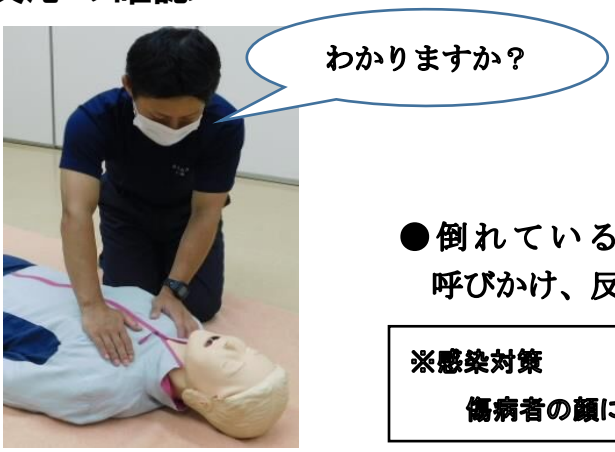
・傷病者の口と鼻にかぶせたハンカチやタオルなどは直接触れないようにして廃棄する

・うがいをする

※感染対策
　すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応する。
　自分のマスクがあれば着用する。

# 心肺蘇生法の手順

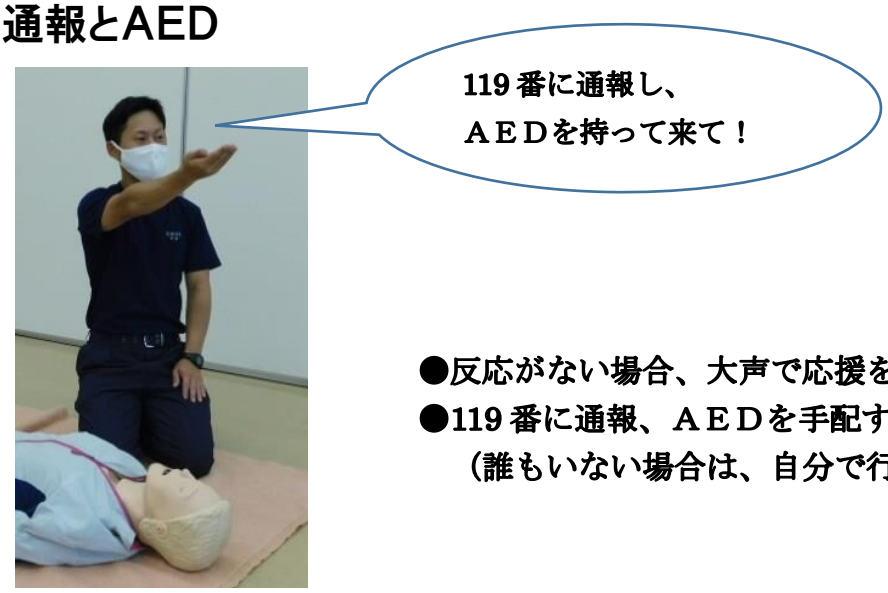
## 1. 反応の確認




●倒れている人の肩を軽く叩きながら
　呼びかけ、反応を確認する。

※感染対策
　傷病者の顔にあまり近づかないように注意する

## 2. 通報とAED




●反応がない場合、大声で応援を呼ぶ。
●119 番に通報、ＡＥＤを手配する。
　（誰もいない場合は、自分で行う）

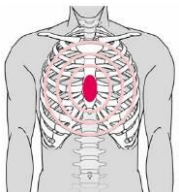
## 3. 呼吸をみる

●胸とお腹の動きを見る。
●呼吸がないか、普段どおりでない場合や、
　判断に迷う場合は呼吸が止まっていると判断する。

※感染対策
　傷病者の顔にあまり近づかないように注意する

## 4. 胸骨圧迫　成人の場合

※感染対策
　胸骨圧迫を開始する前にハンカチやタオルなどを口と鼻にかぶせる
　※人工呼吸は行わない



●胸骨の下半分を圧迫（胸の真ん中）
●深さは、約５cm
●速さは、毎分 100～120 回のテンポで行う。

※感染対策
　応急手当を行うものが複数いれば、一人は部屋の窓を開ける等、室内の換気をする

## 胸骨圧迫　小児(1 歳～16 歳未満)の場合

※感染対策
・ハンカチやタオルなどを口と鼻にかぶせる
※人工呼吸
・講習を受け人工呼吸の技術を身につけ、人工呼吸を行う意思があれば、胸骨圧迫後に実施する。(30：2)
・人工呼吸を行う場合は感染防護具があれば使用する。

小児の場合は、片手または両手で、胸の厚さの約1／3の深さ

# AEDが到着したら

## 1. 電源を入れる

●ＡＥＤの電源を入れる。
●音声ガイダンスとランプに従い操作する。

## 2. AEDのパッドを貼る

●電極パッドは、右前胸部と左側腹部に貼り付ける。（肌にしっかり密着させる）
●パッドの貼り付け
小学生以上は、「小学生～大人用パッド」を使用。
未就学児の場合は、「未就学児用パッド」使用。
●切替スイッチ等がある場合
AED に切替のスイッチやキーがある場合は、「小学生～大人用」、「未就学児用」を選択する。

## 3. 傷病者から離れ、心電図解析

●ＡＥＤのパッドを貼り付けると、自動的に心電図の解析が始まります。この時、「離れて！」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認する。

## 4. 必要なら通電ボタンを押す（※）

●通電ボタンを押す際は、必ず自分が傷病者から離れ、さらに誰も傷病者に触れていないことを確認する。

**※注意**

オートショック AED の場合、電気ショックボタンがなく、自動で電気ショックが実施されるため、音声ガイダンスをよく聞き、指示に従う。

AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、心肺蘇生法の手順を、できるだけ絶え間なく続けることが大切です。

**※感染対策**

- 救急隊に傷病者を引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う
- 傷病者の口と鼻にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄する
- うがいをする

イラスト：救急蘇生法の指針 2020（市民用）より引用